

三重県史

資料編

近世

3

(上)

目

次

凡 序 口 統
例

総合解説・史料所蔵者等一覧

第一章 桑名藩	47
第二章 忍藩	239
第三章 長島藩	319
第四章 萩藩	363
第五章 郡山藩	403
第六章 吹上藩	431
第七章 幕領	467

第八章 一宮藩	509
第九章 神戸藩	525
第一〇章 亀山藩	573
第二章 津藩	737
第一節 伊勢国領	738
第二節 伊賀国領	935
一二章 久居藩	1107
資料提供者及び協力者	1139
あとがき	1201
付表	
津藩伊勢国村落本高・平高・知行形態一覧表（元禄九年）	(2)
津藩伊賀国村落本高・平高・知行形態一覧表（享保十七年）	(20)
久居藩元高・分米高・平高等一覧表（嘉永四年）	(32)

口 絵 目 次

- | | |
|----|------------------------|
| 1 | 鈴鹿川相論絵図写（史料215参照） |
| 2 | 元禄伊賀国絵図の修正天保図 |
| 3 | 津藩無足人中村家甲冑と武具 |
| 4 | 津藩町年寄伊藤又五郎家文書葛籠箱 |
| 5 | 亀山藩大庄屋大久保家長屋門 |
| 6 | 治田鉱山坑道 |
| 7 | 津藩寛政一揆関係者供養塔と墓碑 |
| 8 | 地方割附御達写（史料249参照） |
| 9 | 桑名藩御用御触状留帳（史料10～54参照） |
| 10 | 加納久周教戒の註解書（史料184） |
| 11 | 治田鉱山運上金請取写（史料173） |
| 12 | 津藩町方取締覚（史料253） |
| 13 | 津藩伊賀国領法令州要録（史料350・351） |
| 14 | 名張町年寄・掛屋勤め方覚（史料359） |
| 15 | 無足人拝命請書（史料434） |

細 目 次

第一章 桑 名 藩

一 支配法令

1 領主交代後の百姓への触	正徳元年	51
2 年貢皆済等につき請書	享保十二年八月	58
3 在中懸り物につき触	寛保元年十二月	60
4 藩主代替わりの百姓への触	延享三年八月	61
5 寛政改革の定書	寛政三年九月	64
6 寛政改革の村役人への定	寛政三年九月	64
7 寛政改革の百姓への定	寛政三年九月	64
8 藩主代替わりの百姓への教訓	寛政八年四月	70
9 領主交代後の五人組掟書	文政七年四月	70
10 村々への七箇条目につき覚	文政五年正月	74
11 博奕諸勝負制禁につき覚	文政七年正月	79
	文政七年正月	92
	文政五年正月	92
	文政七年正月	93

12	納米仕法・八天宮配札・儉約等触	文政七年六月	93
13	田畠肥やし用石灰使用禁止の触	文政八年十一月	94
14	農事油断なく励むべき旨演説	文政九年二月	95
15	町在の者・諸職人共大勢申合せの参詣酒興禁止の触	文政十年七月	95
16	通い箱設置につき触	文政十年八月	96
17	地帳本帳を差し出すべき旨達	文政十一年二月	96
18	御城内外往還等車留めにつき触	文政十二年四月	97
19	難渋凌ぎのための小児養育料取請なきよう沙汰書	文政十二年八月	97
20	家中へ対し無礼等なきよう触	文政十三年五月	97
21	領内米切手の通用仰せ付けらるにつき触	文政十三年十月	98
22	御用干鰯・メ粕を大井田屋にて渡すにつき触	天保二年四月	98
23	他所他国へ奉公等の際の心得につき触	天保二年十月	99
24	本高・出高・改出・新田高取調べにつき達	天保三年正月	99
25	辰年限段免並びに高入鉢下等取調べにつき達	天保三年七月	99
26	粉糠国産役所にて取り計らいの儀につき触	天保四年正月	100
27	紙屑・古鉄問屋鑑札ない者の売買禁止の触	天保四年八月	100
28	國產穂蠟実他方へ売捌き差留めにつき触	天保四年九月	101
29	近年穀物高値・不熟につき冬作麦作等仕付けの達	天保四年九月	101

富田一色国産問屋申付けにつき商物津留の触	天保五年四月	102
古手屋株申付につき触	天保五年正月	102
米穀高値につき買入め他所積み差留めの達	天保七年八月	104
浪人体の者村々徘徊につき村役人心得筋申渡	天保七年九月	104
米価高値一統難渋につき米穀売買禁止の触	天保七年十月	104
近年不作難渋につき僨約の触	天保七年十一月	105
米切手趣法替えにつき達	天保八年三月	106
綿寒賃付け員数取調べにつき達	天保八年三月	106
村々難渋者へ銀・調達金利息下さるにつき達	天保八年三月	107
米切手引替えにつき申渡	天保八年三月	107
町人・百姓へ僨約につき触	天保八年三月	107
検見役人廻村につき合附帳差し出すべき旨の達	天保八年十月	108
村方小前極難渋者への救米金遣しにつき達	天保九年六月	108
米切手通用差止めにつき達	天保九年十一月	109
収納米・麦稗・大豆納等につき達	天保十年七月	109
京都への使者入用の御用金申付けにつき触	天保十一年正月	110
蔵米御払の儀京町国産会所にて入札申付けにつき達	天保十三年九月	110

濃州村々御物成江戸廻米積立て分難船御払につき覚	48	弘化四年四月	110
年貢米収納につき達	49	弘化四年九月	111
在中押し込み等怪しき者あるにつき達	50	嘉永元年四月	112
町方質素節儉の儀緩みにつき触	51	嘉永二年五月	112
松平定綱の法事につき達	52	嘉永三年八月	112
当年違作につき触	53	嘉永三年	113
道筋等へ諸品売買致すための建家停止すべき旨の触	54	嘉永四年十一月	113
二 在地代官			
在地代官辻氏勤役記録	55		
在地代官辻氏の勤書覚	56	享和三年十二月	115
在地代官就任に伴う村役人覚帳	57	天明四年七月	117
員弁郡南筋の年貢米納払方中勘目録	58	寛政七年十二月	129
員弁郡南筋の年貢米納払方算用帳	59	享和二年	131
三 年貢・諸役			
領主入封当初の寛永十二年千草村年貢割付状写	60	元禄十四年六月	135
正保三年六名村年貢割付状	61	正保三年十一月	135
村割り後の小原一色村年貢割付書上	62	正保四年十二月	137
二之瀬村と小原一色村高分れにつき覚	63	正徳五年	137

慶安元年西日野村年貢割付状	64	慶安元年十二月	138
藩主代替わり後の慶安五年西日野村年貢割付状	65	慶安五年十一月	139
寛文十一年小原一色村年貢割付状	66	寛文十一年十一月	139
寛文十二年小原一色村年貢皆済状	67	寛文十二年閏六月	140
領主交代の宝永七年六名村年貢割付状	68	宝永七年十一月	141
領主交代後の正徳元年小原一色村年貢割付状	69	正徳元年十二月	141
領主交代後の正徳元年小原一色村年貢定納米帳	70	正徳元年十二月	142
享保二年小原一色村年貢算用帳	71	享保二年四月	143
四 村々の様相			
山方指出し帳	72	享保六年正月	145
博奕禁止の村々請帳	73	文化四年九月	150
川原村の諸願書控帳	74	文化六年（文政三年）	154
文政七年桑名町方御目見順	75	文政七年十一月	215
五 災害・一揆・秤改め			
慶安三年の三重郡石高・毛付高書付帳	76	慶安三年十一月	218
助成講一揆の経過	77	文政六年（七年）	222
員弁郡の助成講一揆	78	文政六年五月（八月）	228
助成講割合延引につき触	79	文政六年八月	233

助成講一揆による村々毀家見分につき触	文政六年八月	80
助成講一揆百姓への申し聞かせ	文政六年八月	81
助成講一揆による村々毀家見分役人案内につき触	文政六年九月	82
助成講割り方の儀につき触	文政六年九月	83
助成講割戻金渡すにつき触	文政六年十一月	84
伊勢国ほか七箇国秤改めにつき触	文政十二年三月	85
秤改めの心得につき触	文政十二年四月	86
秤改め御用場より仰せ聞かされるにつき触	文政十二年十月	87
第二章 忍藩		
伊勢国飛地と陣屋役人	文政六～十三年	88
支配の変遷と在地代官	文政六年～嘉永七年	89
忍藩領から幕領へ支配替え時の御用状留記帳	天保十三年	90
支配村々の願書諸事御届書控	天保九年～嘉永元年	91
幕領から忍藩領へ支配替え時の御用向留帳	嘉永七年	92
第三章 長島藩		
文化十一年村々高附帳	文化十一年	93
	文化十一年	
	321	
	280	
	259	
	246	
	244	
	241	

111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94		
六名村田畠高反別仕訳帳	定免願後明和四年六名村年貢割付状	六名村百姓困窮につき三年の定免願	六名村百姓上中下書上帳	飛地六名村差出し帳	幕府代官支配地長島藩領へ編入につき覚	日永村等幕領へ編入につき内意	長島藩領から幕領への編入経過につき書付	幕領長島新田村々私領渡しの儀御免願	旧長島藩領福井豊松新田築立入用割合帳	福井下新田仲間覚帳	元禄八年福井新田年貢割付状	駒江村割地控帳	元禄八年十一月	元治二年四月	文政十三年六月	天保十三年六月	文政三年七月	明和四年正月	324
明和五年八月	明和五年八月	明和四年十一月	明和四年十一月	文政十三年二月	宝永六年～正徳五年	正徳四年十一月	正徳四年十月	享保十一年二月	享保十三年十月	元禄十七年正月	元禄八年十一月	333	332	331	327	327	327	324	
354	353	352	351	348	347	345	343	342	340	336	335								

112	六名村田方植付け注進状	寛政二年五月	355
113	六名村百姓難渋につき救米下付及び定免願	寛政十二年二月	355
114	救米・定免願後の寛政十二年六名村年貢割付状	寛政十二年十一月	356
115	藩より仰せ出され博奕禁止法度請書	文化四年正月	357
116	六名村諸入用書上帳	文政九年	358
117	菰野町内貸屋敷奨励につき申渡写	天明六年八月	365
118	天明七年仰せ出され書附写	天明七年~寛政十二年	365
119	天保八年領内村々へ対する条目写	天保八年	376
120	天保九年勢州物成請控帳	天保九年九月	380
121	江州越え商売荷物往来出願につき一札	天明四年十一月	397
122	湯の山湯治客の駕籠賃値上げの願書	寛政九年三月	397
123	湯の山湯治客の人馬賃錢値上げの願書	文化三年四月	398
124	湯の山の衰微救済を願う口上覚	天保十四年六月	398
125	湯の山へ遊女体の者同伴默認を願う口上書写	天保十四年六月	399
126	献金につき苗字帯刀御免等の覚	嘉永五年六月	399
127	献金につき大庄屋格を命ずる覚	文久二年十一月	400

128 献金につき賞美の覚

嘉永元年十二月

第五章 郡山藩

129	郡山藩へ献上銀の支払依頼書一	正月	405	405
130	郡山藩へ献上銀の支払依頼書二	正月	406	406
131	藩主へ年始の御礼をする四日市町人の覚	安永十年		
132	郡山表へ年始状の覚	寛政十三年～文政元年	407	407
133	延享元年四日市町入用見積書			
134	年貢先納金元利・堀浚え御用金利息割賦帳	安永四年十一月	413	412
135	大庄屋口入れの御用金の証文献上を承諾する覚	明和三年九月	419	419
136	中町・浜町組舗手役屋敷改め証印帳	天明二年正月	420	420
137	船作事諸入用帳	寛政九年三月	429	429
138	元禄二年庄野町年貢割付状	元禄二年十一月		
139	明和六年庄野村年貢割付状	明和六年十一月		
140	安永七年庄野村年貢割付状	安永七年		
141	庄野町年貢・諸入用帳面保存に関する村定	宝永五年二月		
433				
435				
437				

第六章 幕領

138	元禄二年庄野町年貢割付状	元 禄 二 年 十 一 月		
139	明和六年庄野村年貢割付状	明 和 六 年 十 一 月		
140	安永七年庄野村年貢割付状	安 永 七 年		
141	庄野町年貢・諸入用帳面保存に関する村定	宝 永 五 年 二 月		
433				
435				
437				

延享三年庄野宿明細帳	142	延享三年正月	439
庄野村検地等につき書上帳	143	文化二年三月	444
元文四年十宮村物成勘定帳	144	元文五年三月	445
旅職人・旅商人逗留覚帳	145	元禄九年～宝永四年	446
学問休息所としての大泉坊建立願	146	元禄十四年正月	448
大垣藩年貢米井島家へ売却に関する証文写	147	宝永二年十二月	448
四日市歩役方への助成受取方につき口上の覚	148	（文化七年）二月	450
貯夫食開穀通い帳	149	文化九年～安政六年	454
波切騒動に代官等出張諸入用の分担金受取覚	150	天保三年五月	457
お蔭参り旅人へ施行の残金、常夜灯用へ受取覚	151	天保四年三月	457
四日市陣屋年々收支勘定書	152	天保四～九年	458
四日市納屋町代任命につき請書写	153	天保八年二月	459
大工仲間へ鑑札再交付に関する願書写	154	天保八年二月	459
博奕取締方任命に関する一札	155	天保八年二月	459
盜賊手当番人入用等諸立替金書上	156	天保八年二月	459
	申	安政三年十一月	459
	六	安政五年六月	462
	月	465	462

第七章 吹 上 藩

一相給村落

157	海老原村芝野四給割覚写	享保六年三月	469
158	海老原村三領永代万事記録帳	文政十二年(天保八年)	470
159	四日市宿代助郷入用書上帳写	天保十四年二月	476
160	他領出作制限令の請書写	天保十五年七月	477
二 村方の生活			
161	八木戸村御仕置五人組帳	天明二年三月	478
162	仰せ渡されの請書写	寛政元年九月	488
163	鷹場借地入用半金下付願書控	嘉永五年正月	489
164	旅籠屋飯盛年季奉公人請状	文政八年九月	490
165	八木戸村にて相撲興行願書写	天保四年七月	491
166	鷹場内にて相撲興行願書写	天保四年七月	492
167	善光寺如来絵詞伝新板宣伝の本屋書状	四月	493
三 山田奉行所公金の借用			
168	山田奉行所公金貸附質入帳	文政六年二月	493
169	山田奉行所公金借り入れの節入用割合帳	文政六年二月	495
170	山田奉行所公金貸付け利息取立帳	文政十三年十一月	499
四 難 船			
171	風難船の刎ね米処理につき一札	宝暦十四年正月	506

第八章 一 宮 藩	172	難船積荷等処理につき置手形	明和七年十月	506
-----------	-----	---------------	--------	-----

治田新町屋敷秋運上銀受領証写	173	(慶長十二年カ) 十月			
治田新町屋敷冬運上銀受領証写	174	申	正月	511	
治田鉱山運上額書上の写	175	宝永八年正月	511		
寛保元年銅受領書	176	寛保元年十月	512		
延享五年銅受領書	177	延享五年二月	513		
多志田銀山の小屋敷・人数書上写	178	寛延元年閏十月	513		
南谷銀銅鉛山請山証文写	179	文化三年十一月	514		
銀銅山山方手附岡田家由緒書写	180	515			
中大淀村浜手非常警備足輕の請印帳	181	天保十四年正月	516		
異国船漂着時に出張予定の人数届書写	182	弘化三年二月	517		
目安箱設置の触書写	183	安政六年十一月	518		
加納久周教戒の註解書	184	安政六年十月	520		

第九章 神 戸 藩

僕約・勧農・村運営につき村方への申渡	185
--------------------	-----

安政六年十二月
527

毛見時における村方への申渡	187
神戸町支配につき町年寄・名主への申渡	188
神戸町及び寺院より年貢免除につき届	189
元禄十一年十月	531
竜光寺ほか一二箇寺の年貢免除地面積・分米高書上	190
延享二年十月	533
十日市場ほか四箇村年貢免除高書上	191
天保八年正月	535
天白川普請につき願	192
延享二年十月	533
洪水による被害の届	193
天保八年八月	535
困窮につき御救米下付の願	194
天保八年三月	535
日永村諸事記	195
嘉永三年三月	535
第一〇章 龜山藩	196
第一〇章 龜山藩	197
一 関宿と関川	198
寛文五年の関伝馬町の万覚	199
寛文五年十月	529
閑宿の借用金に対する村々の借用証文	200
閑町川北久左衛門由緒書(抄)	196
寛文五年十月	529
閑宿の借用金に対する村々の借用証文	197
閑町川北久左衛門由緒書(抄)	198
寛文五年十月	529
閑三町宿方取極めと諸色值下げ書上帳	199
寛文五年十月	529
閑川永代無錢常橋の築造に関する覚書類	200
天保十三年五月	593
天保十三年五月	594
天保九年~嘉永五年	600
嘉永三年五月	593
閑川本橋永続につき閑宿願書	198
嘉永三年五月	593

二 商家と大名貸し

201	関町橋爪休意の遺産分割と大名借財	元禄十五年正・二月	614
202	橋爪休意の遺産目録にみる大名借財	元禄十六年正月	617
203	板倉家中から橋爪休意に借用依頼の書状	十月	618
204	橋爪休意の貢献を謝する板倉家中の口上	正月	619
205	橋爪家による板倉家中へ用立金の返済願書	明和七年十月	619
206	橋爪家より所務御用金・賄い金につき願書	享保七年十二月	620
207	嘉永三年備中松山用書控	嘉永三年八月	621
208	嘉永四年備中松山用書控	嘉永四年五月	625
209	橋爪家の家屋敷売払い証文	享保七年	626
	三 相 論		
210	関山子細書上写	正保三年八月	627
211	龜山奉行による関山見分の覚	享保十九年四月	629
212	関山につき信楽代官と山年貢をめぐる書付（抄）	宝暦八年五月	632
213	沓掛村・市之瀬村の関山出入り一件	文政元年十二月	641
214	鈴鹿川川筋六郷四八井堰せき留めの証文写	寛文三年十二月	649
215	鈴鹿川川筋村々出入につき江戸勤めの覚（抄）	寛文四年	655

217	216	寛政十年小野・会下村の相論につき会下村口上書	寛政十年二月
219	218	阿野田・山下村明細書	文化十年八月
220	219	大庄屋による村用米出入り和談の覚	享保二十年九月
221	220	落針村肝煎役不承知の願書取下げにつき請書	弘化四年七月
222	221	大庄屋の帶刀についての覚	享和三年二月
223	222	村方難渋につき年貢用捨の願書	天保四年
224	223	難渋者に対する鷺山村五か年取締り箇条書と村定	天保十年二月
225	224	林の立木減少につき御林書付に対する村中連判帳	明和四年三月
226	225	博奕禁止の触につき御請一札印形帳	享和元年八月
	226	弘化三年御用触状留帳	弘化三年

四 村方の営み

228	227	高虎代の伊賀・津奉行らによる裁許日	享保四年三月
229	230	津加判奉行・郡奉行らによる治政体制	743 741
231	232	第一節 伊勢国領	一 藩政としての領知
233	234	第二章 津藩	第一章 津藩
235	236	第三章 伊勢國領	第二章 伊勢國領
237	238	第四章 伊勢國領	第三章 伊勢國領
239	240	第五章 伊勢國領	第四章 伊勢國領
241	242	第六章 伊勢國領	第五章 伊勢國領
243	244	第七章 伊勢國領	第六章 伊勢國領
245	246	第八章 伊勢國領	第七章 伊勢國領
247	248	第九章 伊勢國領	第八章 伊勢國領
249	250	第十章 伊勢國領	第九章 伊勢國領
251	252	第十一章 伊勢國領	第十章 伊勢國領
253	254	第十二章 伊勢國領	第十一章 伊勢國領
255	256	第十三章 伊勢國領	第十二章 伊勢國領
257	258	第十四章 伊勢國領	第十三章 伊勢國領
259	260	第十五章 伊勢國領	第十四章 伊勢國領
261	262	第十六章 伊勢國領	第十五章 伊勢國領
263	264	第十七章 伊勢國領	第十六章 伊勢國領
265	266	第十八章 伊勢國領	第十七章 伊勢國領
267	268	第十九章 伊勢國領	第十八章 伊勢國領
269	270	第二十章 伊勢國領	第十九章 伊勢國領
271	272	第二十一章 伊勢國領	第二十章 伊勢國領
273	274	第二十二章 伊勢國領	第二十一章 伊勢國領
275	276	第二十三章 伊勢國領	第二十二章 伊勢國領
277	278	第二十四章 伊勢國領	第二十三章 伊勢國領
279	280	第二十五章 伊勢國領	第二十四章 伊勢國領
281	282	第二十六章 伊勢國領	第二十五章 伊勢國領
283	284	第二十七章 伊勢國領	第二十六章 伊勢國領
285	286	第二十八章 伊勢國領	第二十七章 伊勢國領
287	288	第二十九章 伊勢國領	第二十八章 伊勢國領
289	290	第三十章 伊勢國領	第二十九章 伊勢國領
291	292	第三十一章 伊勢國領	第三十章 伊勢國領
293	294	第三十二章 伊勢國領	第三十一章 伊勢國領
295	296	第三十三章 伊勢國領	第三十二章 伊勢國領
297	298	第三十四章 伊勢國領	第三十三章 伊勢國領
299	300	第三十五章 伊勢國領	第三十四章 伊勢國領
301	302	第三十六章 伊勢國領	第三十五章 伊勢國領
303	304	第三十七章 伊勢國領	第三十六章 伊勢國領
305	306	第三十八章 伊勢國領	第三十七章 伊勢國領
307	308	第三十九章 伊勢國領	第三十八章 伊勢國領
309	310	第四十章 伊勢國領	第三十九章 伊勢國領
311	312	第四十一章 伊勢國領	第四十章 伊勢國領
313	314	第四十二章 伊勢國領	第四十一章 伊勢國領
315	316	第四十三章 伊勢國領	第四十二章 伊勢國領
317	318	第四十四章 伊勢國領	第四十三章 伊勢國領
319	320	第四十五章 伊勢國領	第四十四章 伊勢國領
321	322	第四十六章 伊勢國領	第四十五章 伊勢國領
323	324	第四十七章 伊勢國領	第四十六章 伊勢國領
325	326	第四十八章 伊勢國領	第四十七章 伊勢國領
327	328	第四十九章 伊勢國領	第四十八章 伊勢國領
329	330	第五十章 伊勢國領	第四十九章 伊勢國領
331	332	第五十一章 伊勢國領	第五十章 伊勢國領
333	334	第五十二章 伊勢國領	第五十一章 伊勢國領
335	336	第五十三章 伊勢國領	第五十二章 伊勢國領
337	338	第五十四章 伊勢國領	第五十三章 伊勢國領
339	340	第五十五章 伊勢國領	第五十四章 伊勢國領
341	342	第五十六章 伊勢國領	第五十五章 伊勢國領
343	344	第五十七章 伊勢國領	第五十六章 伊勢國領
345	346	第五十八章 伊勢國領	第五十七章 伊勢國領
347	348	第五十九章 伊勢國領	第五十八章 伊勢國領
349	350	第六十章 伊勢國領	第五十九章 伊勢國領
351	352	第六十一章 伊勢國領	第六十章 伊勢國領
353	354	第六十二章 伊勢國領	第六十一章 伊勢國領
355	356	第六十三章 伊勢國領	第六十二章 伊勢國領
357	358	第六十四章 伊勢國領	第六十三章 伊勢國領
359	360	第六十五章 伊勢國領	第六十四章 伊勢國領
361	362	第六十六章 伊勢國領	第六十五章 伊勢國領
363	364	第六十七章 伊勢國領	第六十六章 伊勢國領
365	366	第六十八章 伊勢國領	第六十七章 伊勢國領
367	368	第六十九章 伊勢國領	第六十八章 伊勢國領
369	370	第七十章 伊勢國領	第六十九章 伊勢國領
371	372	第七十一章 伊勢國領	第七十章 伊勢國領
373	374	第七十二章 伊勢國領	第七十一章 伊勢國領
375	376	第七十三章 伊勢國領	第七十二章 伊勢國領
377	378	第七十四章 伊勢國領	第七十三章 伊勢國領
379	380	第七十五章 伊勢國領	第七十四章 伊勢國領
381	382	第七十六章 伊勢國領	第七十五章 伊勢國領
383	384	第七十七章 伊勢國領	第七十六章 伊勢國領
385	386	第七十八章 伊勢國領	第七十七章 伊勢國領
387	388	第七十九章 伊勢國領	第七十八章 伊勢國領
389	390	第八十章 伊勢國領	第七十九章 伊勢國領
391	392	第八十一章 伊勢國領	第八十章 伊勢國領
393	394	第八十二章 伊勢國領	第八十一章 伊勢國領
395	396	第八十三章 伊勢國領	第八十二章 伊勢國領
397	398	第八十四章 伊勢國領	第八十三章 伊勢國領
399	400	第八十五章 伊勢國領	第八十四章 伊勢國領
401	402	第八十六章 伊勢國領	第八十五章 伊勢國領
403	404	第八十七章 伊勢國領	第八十六章 伊勢國領
405	406	第八十八章 伊勢國領	第八十七章 伊勢國領
407	408	第八十九章 伊勢國領	第八十八章 伊勢國領
409	410	第九十章 伊勢國領	第八十九章 伊勢國領
411	412	第九十一章 伊勢國領	第九十章 伊勢國領
413	414	第九十二章 伊勢國領	第九十一章 伊勢國領
415	416	第九十三章 伊勢國領	第九十二章 伊勢國領
417	418	第九十四章 伊勢國領	第九十三章 伊勢國領
419	420	第九十五章 伊勢國領	第九十四章 伊勢國領
421	422	第九十六章 伊勢國領	第九十五章 伊勢國領
423	424	第九十七章 伊勢國領	第九十六章 伊勢國領
425	426	第九十八章 伊勢國領	第九十七章 伊勢國領
427	428	第九十九章 伊勢國領	第九十八章 伊勢國領
429	430	第一百章 伊勢國領	第九十九章 伊勢國領

229	加判奉行の一時変容	宝永二年・享保四年	743
230	歴代の津加判奉行	慶長十三年～安永二年	744
231	津町寛文の大火につき記事	寛文二・三年	
232	切支丹など宗旨不審者の宿取締につき覚	寛永二十年十月	747
233	寺々夜談議執行につき覚	貞享三年十一月	748
234	寺社方御条目七箇条写	貞享三年六月	749
235	津領下寺社方改めにつき達	元禄九年二月	750
236	他所への奉公停止し耕作出精につき覚	正保四年二月	750
237	津領下伝馬人足につき達	貞享元年十二月	751
238	津領下銀札通用につき記事	安永四年・文化十一年	752
239	御領分銀札通用取扱いにつき伺	文政四年九月	752
240	津表六四銀札引替所につき仰せ付け	嘉永二年三月	754
241	伊勢領下御救米などにつき法令	元文二年十二月	754
242	御救金積立金につき主意書並びに釀金記録	文政十二年十二月	756
243	御救粥の人数	嘉永四年五月	760
244	水練御覽並びに御乗船の儀につき達	嘉永二年五月	760
245	部田橋出来見分の式につき達	弘化三年五月	761
246	川上八幡・津八幡へ近江の藤植樹につき控	弘化二年九月	761

川上八幡での雨乞い並びに御代拝につき控	文化十四年・嘉永元年	247												
領下百姓共津城下にて騒動につき記事	寛政八年十二月	248												
寛政八年小倭郷騒動の始終有増記録	寛政十一年	249												
安濃郡七郷立会い新池取立てにつき和談の定	文政四年九月	250												
川曲郡用水の出入りにつき玉垣村の返答書	元禄十年十月	251												
二 町方の営み														
津町中相守るべき二一箇条	貞享三年六月	252												
町中二一箇条毎月読み聞かせにつき覚	貞享四年十二月	253												
津町々年寄定書	万治三年四月	254												
津町名主役仰せ付け状	792	255												
津町名主役勤め方につき覚	寅九月	256												
名主役料割賦につき申渡	元禄五年正月	257												
伊藤又五郎津興大庄屋兼職につき役料書	宝永三年十一月	258												
津總年寄伊藤又五郎由緒書	文化十二年	259												
津町人改めにつき覚	貞享四年三月	260												
津町衆よりの進上目録	寛永十九年七月	261												
高虎以来出来の町々	享保七年五月	262												
津宿用の儀につき公儀勘定役へ差出書	嘉永三年十月	263												
801	799	798	797	795	795	794	794	792	792	787	784	781	762	761

町会所金の取扱改正につき申渡	嘉永元年十二月	264
町会所掛りの者諸雜用につき覚	嘉永二年閏四月	265
町目付による取扱い筋につき申立て伺	嘉永四年十二月	266
町目付定役につき仰せ付け	天保十五年六月	267
組心得につき覚	天保十五年二月	268
切支丹宗門の儀につき覚	貞享四年七月	269
津町中僕約取締の定	文化十一年六月	270
津町中火の用心につき覚	寛文八年十二月	271
津町小使い役勤めるにつき差し出し一札	寛政十年八月	272
津町辻番・自身番勤め方につき定書	寛政九年九月	273
津町宿馬減少につき記録	寛政十一年六月	274
津方家作り道造りにつき申達	寛政十一年六月	275
江戸へ町飛脚の出日	寛政十一年六月	276
古米船積みにつき津加判奉行の覚	寛政十一年六月	277
他国他領に在る津町の者につき覚	寛文五年三月	278
侍衆奉公人の花火・踊り見物停止につき覚	正保三年七月	279
家中小者・中間の衣類につき覚	天和三年三月	280
末々町々の在家奉公人につき覚	貞享三年六月	281
	803	
	804	
	804	
	804	
	805	
	806	
	806	
	807	
	808	
	809	
	810	
	811	
	812	
	813	
	814	
	815	
	816	
	817	
	818	
	819	

282	津久居四方の入口町々につき覚	天和三年六月
283	女奉公人出替わりなどにつき覚	天和二年二月
284	遊女がましき女奉公人など置くまじき旨の覚	寛文十三年三月
285	津町末々茶屋に一宿停止につき覚	天和三年三月
286	浪人徘徊僧など一宿の外停止につき触	寛文十一年正月
287	旅籠屋の外旅人泊まり停止につき訴状	宝永三年三月
288	六町の旅籠屋訴状につき覚	貞享二年十二月
289	旅籠屋相論での総年寄問屋下知につき申付け	貞享三年閏三月
290	津町油問屋掟	寛政四年三月
291	津町砂糖問屋掟	寛政四年三月
292	津町重立ち町人衆分限帳	嘉永元年九月
293	岩田川並びに堀川通船難渋につき浚渫の伺	元禄十一年四月
294	岩田川浚渫図面の通り申付けたき旨の伺	弘化四年五月
295	津町人衆よりの川浚い手伝い金	嘉永二年
296	御厨観音の称号並びに会式の儀につき御主意書	嘉永二年正月
297	御厨神事における練り町取締りの復古	十二月
298	八幡町煙草の儀につき覚	元禄元年十二月
299	八幡宮祭礼首尾よきにつき書狀	八月

祭礼用銀子借用の証書	300	寛永十二年十一月	839
八幡宮祭礼の由来	301		
近世前期の祭礼行列次第	302		
近世後期の八幡祭礼の次第	303	天保十三年八月	845
八幡宮祭礼の次第	304	嘉永四年	861
八幡宮における興行物につき言上	305	弘化元年十一月	862
三 郷方の嘗み			
御領分村高帳	306		
平高につき公儀尋問と覚	307		
平高の訳につき書留	308		
税法につき藤堂高文論述	309		
あがり免などにつき覚	310		
津領郷中一七箇条	311		
一七箇条目守る旨などの儀につき一札	312	寛永二十一年九月	877
大庄屋・村役人・無足人等改革以後緩みなきの覚	313	天和三年八月	878
村々上納など出精すべきの覚	314	元禄四年六月	882
勢州南山中などの納所仕様につき定	315	文化十一年六月	888
川北清右衛門大庄屋総取締役仰せ付けの触	316	万治二年八月	889
天保八年三月	890		

318	大庄屋記録前書	天保八年
319	大庄屋山田藤左衛門自殺檢死につき覚	天保十三年十二月 891
320	服部庄右衛門肥田組大庄屋仰せ付けの覚	天保十四年三月 894
321	河辺至左衛門代々大庄屋格に仰せ付け	安政四年十二月 895
322	河辺至左衛門の帶刀衣服免許状	安政四年十二月 896
323	野口村庄屋交代につき諸帳面並びに道具類引渡帳	貞享元年四月 896
324	郷中無足人共へ守るべき達	安政三年十二月 897
325	魚見組無足人扣帳	安政三年十二月 897
326	矢野村無足人御改帳	享保七年五月 899
327	矢野村無足人鷹山甚右衛門覚	天保十三年 900
328	加太無足人共鉄砲一覽につき控	天保十三年 903
329	演武莊創業につき控	寛延三年正月 903
330	郷中無足人演武莊並びに西洋砲へ出金の目論み	元禄六年十一月 904
331	学校より演武莊剣術修行につき申渡	嘉永元年八月 905
332	猪鹿大狩りにつき覚	嘉永元年四月 905
333	郷中吟味役仰せ付けにつき伺	嘉永元年六月 905
334	加太越え伊賀道の記	嘉永三年四月 906
335	殿様御上國の内鷹場につき申触	嘉永元年二月 907
336	延宝八年九月	弘化三年十一月 909
337	天保二年九月	天保二年九月 910
338	915	915

殿様御巡見につき通知状	弘化二年八月	916
郡奉行方順郷につき先触	天保十五年九月	917
取締り箇条につき伺	天保十年三月	918
郷中儉約につき触	文化四年十月	921
他領よりの作奉公人召し抱えなどにつき覚	元禄四年六月	922
郷中にて商売の儀につき達	宝暦十三年十二月	923
領下の者他所奉公並びに商売につき触	元文三年正月	924
郷中より御家中へ牛馬にて付け来るにつき触	文化十二年正月	925
下々奉公人などにつき覚	明暦二年正月	925
郷藏建て替えにつき口上	嘉永三年六月	926
諸新田への御国割の割賦などにつき口上	嘉永三年六月	927
田地永代売買につき覚	延宝七年八月	928
田畠質入の儀につき触	享保六年二月	929
田畠売買の儀につき触	寛政七年三月	930
田畠虫入異作にて山神の霜月神事遠慮の記録	嘉永三年十一月	933

第二節 伊賀国領

一 法令・年貢等

351	州要録卷二	嘉永五・安政六年
352	京愛宕山配札・他所奉公等口達並びに町方寄り合い定	八月
353	殿様通行時の上野町方心得	
354	定免につき定	
355	承応二年夏見村年貢割付状	承応二年七月
356	寛文十年夏見村年貢割付状	寛文十年十一月
357	延宝六年夏見村年貢割付状	延宝六年八月
358	下柘植村内旗本・二条城守力知行地につき口上覚	元禄二年六月
359	名張町町年寄・掛屋勤め方につき達	元禄三年九月
360	無足人竹島氏諸役勤め方につき愛田村連印状	文政十一年八月
361	二 交通・流通	
362	往還筋木賃等につき定	承応二年正月
363	島ヶ原御茶屋扶持馬につき口上覚	元禄十五年二月
364	天文方伊能忠敬測量先触写	文化八・九年
365	伊賀越道中宿方不埒につき規定書連印帳	天保十一年七月
366	江州多賀僧配札紛失一件・大和油粕につき名張宿覚	嘉永元年六・七月
		1852
		嘉永三年九・十月
		1856

367	南出村馬養生場の草につき名張宿馬借定一札	嘉永四年十二月	1057
368	禁制の菜種大和継ぎ送りにつき名張宿覚	弘化四年五月	1058
369	夏見村鶴匠由緒口上控	延享二年四月	1060
	三 相論・一揆		
370	上柘植村との境目相論につき上村・下柘植村言上書	正保四年五月	1061
371	山相論につき下柘植村・愛田村・上村の言上条々	慶安二年八月	1065
372	津藩寛政一揆につき伊賀聞き合わせ書	寛政八年九月	1067
373	比自岐郷四箇村騒動につき出勤覚	寛政九年	1062
	四 生活・災害		
374	靈山寺雨乞い入用高割りにつき下柘植村返答書	元文五年三月	1094
375	水害・大雪情報書上	享和二年六月	1085
376	丸柱村瀬戸屋業者に郷中困窮人召し抱え覚	安政三年十二月	1096
377	旱魃につき荒木村・西明寺村井堰利水願	丑七月	1097
378	久居眼医方にて治療願	享和二年五月	1097
379	疱瘡見舞品書上	文政十二年十三年	1099
380	上野町教諭所にて種痘指示覚	安政三年五月	1097
381	下總領分にて医業従事につき覚	卯七月	1097
382	伊賀国村明細帳	(享保十七年).....	1101

第一二章 久居藩

一触・通達

383	雲出川筋漁の定	正保三年五月
384	雲出川川狩りにつき覚	
385	津藩寛政一揆につき津藩よりの申達	寛政九年正月
386	福寿院祭礼時の相撲興行につき留書	天明三年九月
387	御隠居様逝去につき鳴物停止などの触	文政十一年十月
388	宗門帳作成などにつき触	天保十三年三月
389	他所出稼人改めにつき触	辰 二月
390	毛見日などにつき達	嘉永四年十月
391	津若殿様久居入りにつき道割りの達	嘉永五年閏二月
392	作方検分につき達	嘉永五年三月四月
393	義倉積立金受渡しにつき達	文政十一年六月
394	早田の毛付調査につき達一	文政十一年八月
395	早田の毛付調査につき達二	文政十一年八月
396	年貢納所につき達	文政十一年九月
397	免札受渡しつき達	文政十一年十月
1130		1130
		1129
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128
		1128

久居藏米の売買につき達	398	文政十二年正月	1131
田方植付け終了の達	399	文政十二年十二月	1131
満九〇歳の祝いのため達	400	文政十二年十一月	1132
参宮者多数につき宿泊など対応の触	401	文政十三年閏三月	1132
参宮者多数につき施しなどの達	402	文政十三年閏三月	1133
参宮者多数のため米不足につき触	403	文政十三年四月	1133
毛見の日時につき達	404	文政十三年九月	1134
長雨につき五穀成就祈祷の達	405	天保七年七月	1135
千手院御祈祷によるお札の受納につき達	406	天保七年七月	1135
当年飢饉につき穀類の売買につき触	407	天保七年八月	1135
当年飢饉につき下行米の配当	408	天保七年十一月	1136
当年飢饉につき儉約の触	409	天保七年十一月	1137
当年飢饉につき穀類売買の禁令	410	天保七年十一月	1137
当年飢饉につき一五箇条の達	411	天保七年十一月	1138
当年より五箇年請免につき願	412	天保八年二月	1138
請免の免合につき請書	413	天保八年二月	1141
五百野村・多野田村の村境改めにつき証文	414	天保八年	1141
二相論			

多門村と宝並村・萩野村の山論につき口上	415	元禄五年七月
稻子山の帰属をめぐる新法への不服申立て	416	宝暦四年閏二月
森村・片田前田村の境目につき請書	417	天保九年八月
栗原など七箇村井水相論覚	418	天保十年六(八)月
	419	1146
	420	1150
	421	1152
	422	1153
	423	1154
	424	1159
	425	1160
	426	1161
	427	1161
	428	1162
	429	1162
	430	1163
御種米・夫米の受取につき書付	431	1164

三 村人の活動

百姓難渋につき願	419	寛政六年十一月
米価高値につき御救い願	420	嘉永四年四月
用水保全のための普請願	421	嘉永六年九月
台風被害甚大につき訴書綴	422	子八月
小戸木村渡し船修繕金拝借につき願	423	文化二年八月
森村と中村をつなぐ新橋造立につき取決め	424	文政十二年十二月
福寿院にて雨乞い祈祷につき達	425	嘉永五年六月
雨乞い祈祷につき達	426	嘉永五年六月
天心寺御開帳につき勧化の達	427	天保十三年二月
氏神天満宮御神殿御開帳の願	428	嘉永五年正月
川方村天満宮御開帳につき届	429	嘉永五年三月
矢野村香良洲社遷宮奉加につき願	430	弘化元(二)年三月
御種米・夫米の受取につき書付	431	嘉永五年三月

川方村利藏紀州にて病死につき書付	弘化三年七月	1167
四 村 沢		
池山勘左衛門に対する無足人免許状	元禄三年正月	1172
楠平尾村五郎左衛門の無足人拝命請書	元禄元年二月	1173
荒畠開発の功勞により検地役格への申付け	嘉永四年十二月	1173
疱瘡流行時の功勞により検地役格への申付け	嘉永五年十月	1174
無足人の年頭御礼につき願	嘉永元年六月	1174
苗字免許につき書き置き	文化五年正月	1176
無足人相調帳	天保十四年	1177
久居領大庄屋・無足人など座列改め	嘉永二年五月	1178
鉄砲所持取調べ帳	嘉永六年八月	1187
八太組諸職人改帳	嘉永四年正月	1189
郡別入数改め	嘉永五年七月	1191
組別入数・家数・牛馬數目録	嘉永五年三月	1192
村別分米高・平高	嘉永四年五月	1194